

# 急速な少子高齢化の進行

わが国では、今後更に急速に少子高齢化が進行することが予想されています。今回の改正は、将来にわたり年金制度を安心できるものとするために必要なものです。

○未婚率の推移

		1975年	2000年
25～ 29歳	男	48.3%	69.3%
	女	20.9%	54.0%
40～ 44歳	男	3.7%	18.4%
	女	5.0%	8.6%

(資料)総務省統計局「国勢調査報告」

○平均初婚年齢の推移

		1975年	2003年
男		27.0歳	29.4歳
女		24.7歳	27.6歳

(資料)厚生労働省「人口動態統計」

○「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」では、未婚化・晩婚化以外に、夫婦の出生力自体にも低下傾向が見られることが明らかになりました。

女性が一生涯に何人の子どもを産むか  
→ 2050年には1.39人。これは、世界でも極めて低い水準です。

(合計特殊出生率)

1975年 1.91人  
2003年 1.29人  
2025年 1.38人  
2050年 1.39人

現役世代何人で高齢者を支えるか  
→ 2025年には、現役世代2人で1人の高齢者を支えることに。

(20～64歳の人口：65歳以上人口)

1975年 7.7人:1人  
2000年 3.6人:1人  
2025年 1.9人:1人  
2050年 1.4人:1人

年金の受給期間はどの程度か  
→ 2025年には、年金をもらう期間の平均は男性で19年、女性で25年

(65歳からの平均余命)

1975年 男13.7年、女16.6年  
2000年 男17.5年、女22.4年  
2025年 男18.9年、女24.8年  
2050年 男19.7年、女26.2年

制度を支える力の減少

保険料水準  
国庫負担  
のあり方

改革の必要性

給付費の増加

給付水準  
のあり方

※ 1975年、2000年、2003年は実績。2025年、2050年は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)(中位推計)」による。